

## 環境の変化

(公社) 日本透析医会

常務理事 戸澤修平

令和元年10月、記録的な大雨をもたらした東日本を縦断した台風19号、21号と、その後が続いた再度の大雨で土砂災害、洪水、浸水被害が拡大し、その被害でお亡くなりになった方々、ならびに被災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。

10年ほど前より筆者在住の札幌の季節毎の気温上昇が気になっていたが、今回の台風、大雨による大災害を経験して、我々を取り巻く自然環境が大きく変わりつつある事を再認識するようになった。環境の変化といえば、筆者は7~8年ほど前から誕生日になると大きな木の鉢をプレゼントされ2階の外に置いている。今年は斑入りホンコンカポックセラートという葉の文様が綺麗な観葉植物を頂いた。しかしながら何故か毎年20~30日程経過すると、それなりの手入れをしているが葉の艶が無くなり枯れて落ち始める。この観葉植物は本州から運ばれてくることで、環境が大きく変わりそれがストレスとなって枯れるのではないかとのことである。我々にとって些細とされている環境の変化もこの観葉植物には致命的な環境変化なのだと実感した。

自然環境で今一番の問題は全世界で取り上げられている地球温暖化対策である。今年の国連での「気候行動サミット」で、スウェーデンの16歳のグレダ・トゥンベリさんが温暖化阻止を求める演説をした。我々も日本の気候が温暖化の影響で変わってきていることを、気温の異常上昇、ゲリラ豪雨の多発等、降雨量の増加、台風勢力の拡大等の気象状況の変化、それに伴う海水温の上昇で千葉県沖に珊瑚礁ができたり漁獲される魚類の変化、農業においても「美味しいお米」は北海道産といわれるようになってきた事などで、日本の自然環境の変化が地球温暖化によることと実感してきている。

また、それとは別に環境破壊しているものとしてマイクロプラスチック問題、今や我々の日常生活で欠かすことのできないプラスチックが今後の自然環境破壊に重大な影響を及ぼし、人体をはじめすべての生物に大きな影響を与えるとは考えもしていないことだった。環境破壊の始まりは産業革命と考えられるが、我々は産業革命により様々な技術革新、製鉄業の成長、そして蒸気機関の開発による動力源の刷新により生活は飛躍的に豊かになった。しかしながら、その豊かさと引き替えにわずか150年程でこれほどの自然環境破壊が進むとは予想していなかった。この破壊は我々人類が幸せを満す欲望のために普遍であるはずの自然のサイクルを破壊したために招いた恐ろしい結果であり、今後、豊かになった生活と引き替えにどのように多大な負債を背負うことになるのか、どんな結果を招くことになるか想像がつかない。これらの環境破壊の改善策はすべての人類がこの問題に正面から取り組み、個々のエゴを捨てなくては実現できないし、このままでは次世代に負の遺産を残すことになる。

また、自然環境ばかりではなく、現在日本の社会環境もIT産業の発達によりアナログ時代から

デジタル社会へと変遷し、税の電子申告、電子商取引、インターネットバンキング、キャッシュレス、ネットショッピングの加速などで生活が大きく変わりつつあるが、この豊かさに酔いしれていいのか、この利便性の裏返しに何が来るのかが懸念される。このIT産業ではすでに巧妙な詐欺などの犯罪が横行しており、正確な情報把握の必要性を痛感しているが対策の答えはまだ見つからない。

医療環境においてもAIの進歩により、今までに得られた膨大な医療情報を分析活用することにより、瞬時に治療方法が解明したり、新しい病気が判明する時代が来ている。また、医療ロボット「ダ・ヴィンチ」の活用、iPS細胞に代表される再生医療分野でも著しい進展を見ているが、これらが病める人々を助けハッピーエンドで終るのなら最高であるが、これに伴う未知の解決しなければならない不都合が沢山出てくる可能性もあり、その危険や責任の所在をどうするのかなど問題が山積である。

医療というのは時代が変わろうが環境が変わろうが人対人の関わり、病める人对治療する人同士との関わり合いであり、未知の問題が出てきても人は叡知をもって乗り切っていくしかないし、それを持続させなければならない。